

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和7年3月14日（金）15:05
小倉北区役所6階 教育委員会会議室

1 開 会

2 案 件

(1) 協議

① 「いじめ重大事態の調査結果の報告について」
(学校支援担当課長)

② 「いじめ重大事態の調査結果の報告について」
(学校支援担当課長)

(2) その他報告

その他報告①「令和6年度 第1回北九州市学校給食審議会について」
(学校保健課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- | | | | |
|---|-------|---|--------|
| 1 | 開催年月日 | 令和7年3月14日（金） | |
| 2 | 開催時間 | 15:05～16:27 | |
| 3 | 開催場所 | 小倉北区役所 東棟6階 教育委員会会議室 | |
| 4 | 出席者 | (教育長) 田島 裕美
(教育委員) 大坪 靖直、郷田 郁子、香月 きょう子、中島 良、清成 真 | |
| 5 | 事務局職員 | 教育次長 | 高松 淳子 |
| | | 総務部長 | 大庭 千枝 |
| | | 学校支援部長 | 富原 明博 |
| | | 教職員部長 | 澤村 宏志 |
| | | 学校教育部長 | 藤井 創一 |
| | | 教育相談・特別支援教育担当部長 | 有田 勝彦 |
| | | 総務課長 | 久保 慶司 |
| | | 企画調整課長 | 栗原 健太郎 |
| | | 教職員課長 | 岡本 裕史 |
| | | 学校保健課長 | 中山 賢彦 |
| | | 生徒指導課長 | 山中 孝一 |
| | | 学校支援担当課長 | 辻 健一郎 |
| | | 学校支援担当課長 | 中村 国彦 |
| 6 | 書 記 | 総務課庶務係長 | 桑本 清 |
| | | 総 務 課 | 中島 遥香 |
| 7 | 会議の次第 | 別紙のとおり | |

教育委員会(定例会)会議録（令和7年3月14日）

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、香月委員と清成委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・協議①「いじめ重大事態の調査結果の報告について」
- ・協議②「いじめ重大事態の調査結果の報告について」

3 案 件

（1）公開案件

その他報告①「令和6年度第1回北九州市学校給食審議会について」

学校保健課長が報告。

〔報告要旨〕以下の項目について報告。

中 島 委 員／審議会の中で資料16ページ（2）の「教職員等の負担」について、何か審議されたことがあれば教えていただきたい。先生方の給食費を税金で賄うことについてのご意見は様々あると思うが、一方で、先生方の給食時間は休憩時間ではなく指導の時間とされている。それは「食育」として取り上げる時間であり、子どもと同じものを食べるようになっていることやアレルギー対応など、様々な観点で先生方は給食を共にしなければならない。これは1つの教材としての側面もあると思うのだが、「高騰分は自己負担にしろ」という考え方や、「そんなに高い額じゃないから払えるよ」「どうかならんのか」との意見もあると思われる。その辺りについて、審議会でのどのようなご意見・審議があったのか、教えていただきたい。

学校保健課長／審議会の中では、そのような「保護者負担のあり方」についての深い意見は出なかった。ただ、委員が言われたとおり「食育の一環として位置付けている以上、これは公務の中にあるんじゃないか」という意見や、「自分たちのお昼ご飯なので自己負担が原則じゃないか」という意見、それぞれ様々な視点があると考えている。

1つは、これまでも学校給食の負担は、先生方・子どもたちも同様に、自己負担でお願いしてきた経緯がある。

また、交付金の制度趣旨が教職員には馴染まないことが示されたが、この考え方は他の政令市も同様である。北九州市は令和7年度からだが、他政令市の半分以上が令和5年度・6年度から既に、教職員分は切り離して値上げしている。

よって、北九州市としても、令和6年度は何とか現行で据え置いたが、制度趣旨とこれまでの経緯、そして食育の一環であるとともにご自身の昼食の自己負担という考え方も総合的に勘案し、今回値上げのご了承をいただいた。

この件については、組合団体などへも事前に説明を行い、様々なご意見をいただいたが、概ねご理解をいただいたところである。

中 島 委 員／十分ご検討されていたとのことで安心した。

香 月 委 員／7ページの残食率について。残食が多いことが良いか悪いかはさておき、大体、もともと小学校で3%・中学校で5%程度の残食率があるが、これはそもそも、そのくらい多めに作っているという意味か。

学校保健課長／残食の前提として、当日子どもたちが何人登校してくるかを想定して作っており、当日欠席などについては当日の食数変更ができないため、残食としてカウントせざるを得ない。よって、例えば感染症が集団発生して学級閉鎖になると、1クラス分全てが残食となる。コロナ禍でもそのような事態が発生したが、昨年度冬に大規模なインフルエンザ、そして今年は11月・12月に集団発生がかなり流行したこともあり、このような場合は、どうしても残食率に跳ね返ってしまう状況がある。

香 月 委 員／残食率の出し方については了解した。しかし、小・中学校ともに、主食の残食率が高いところは気になる。子どもは成長期なので、糖質をきちんと摂取しないと、午後の授業及び運動に差し障りがあると考えるが、これに対して何か対策は取られているか。

学校保健課長／特に、小学校の主食の高止まり感というものは顕著に出ている。形式的に申し上げると、やはり「おいしい給食を提供していくことが残食率を下げる近道の1つなのではないか」という前提はあるが、子供によって食事は学年によっても異なり、同じ量を提供しても「多い」と感じる子どもと、「少ない」と感じる子どもがいる。

特に、低学年の子どもたちは近年、「食べ切る」ということよりも「食べられる量を提供する」ということを推進しており、昔のように「食べ終わるまで昼休みは取らせません」との指導は行われていない。現在は「食べられる量を食べられる時間の中で提供する」ことを実施している。よって、それが「頑張ってもうちょっと食べましょう」ということは可能であるが、無理に食べ切ることはまではさせない。

学校からの声を聞くと、「特に低学年で少し食が細い子が増えてきているんじゃないか」、あるいは「食べるのが遅い子が増えてきているんじゃないか」との印象があると聞いている。ほかには時期的に、「夏場は主食の食事がちょっと進むのが遅い」、いわゆる夏バテと言うんでしょうか、食事が相対的に下がるといった傾向もあると聞いている。

こういった現状を分析しながら、一方で、足りない子どもたちもいるので、「適切な量を必要な量だけ提供していく」という考え方で、おいしい給食の提供と併せて改善に取り組んでいきたいと考えている。

香 月 委 員／「おいしい給食」は大事であるが、これを単純に見ると「おかずを食べて主食を残している」とも取れるので、やはり「食育」というからには食事のバランスが非常に重要なので、その辺りも教育し、啓発していただきたい。要望である。

田島教育長／教育委員の1人として申し上げる。香月委員がご指摘されたのは、「主食の残食率がすごく高い」ということを気にされており、「おいしい給食大作戦」とし

てメニューが豊富になっていくのは、どちらかと言うと副食ばかりである。北九州市の主食の提供の仕方として、副食とは異なり、主食の場合はたくさん食べる子に少ない子から回してあげることができない。やはりそのような仕方も、主食の残食率の多さに反映されていると思うと、今後は提供方法にも工夫が必要だと思う。

清 成 委 員／香月委員がおっしゃられていたのは、主食の残食率とおかずの違いである。教育委員として何度か給食をいただく機会があったが、やはりご飯の量をもう少し減らして、おかずを増やしてもよいのではないかと思ったことは事実である。栄養的なバランスも大事であるが、量的なバランスも含め、メニューを工夫していただけるとよいと思う。

田島教育長／今度は教育長として、教育委員の皆様へ提案である。「おいしい給食大作戦」は、子どもたちに非常に評判がよいので、ぜひ、教育委員として各学校の給食を何度かご試食いただきたいと思う。

郷 田 委 員／同じく、残食率に関する質問である。学校に行かない不登校の子どもは、登校する・しないの比率が人によって異なるが、ほぼ行っていない子どもについては、例えば給食を止められるケースが多いのだろうか、という質問である。

親の気持ちからすると、「行く可能性があるなら、行った時に給食がないのは嫌だな、出してやりたい」と思うが、行かなければ家でご飯を食べるので、その分家計の負担も増える。この辺りは親御さんの判断も難しいと思い、学校側の対応として、何かあれば教えていただきたい。

学校保健課長／お話しいただいたように、不登校の子どもは、来る日と来ない日がランダムに発生するケースがある。この場合、当日の食数変更ができないため、事前に食べない日をご指定いただかないと、当日は来る可能性があるとして用意する。これが、食べないと「残食」となる。この食数変更は、保護者からの申し出がないと変更ができない決まりがある。一食概ね4日前ぐらいまでには「食べない」とのご連絡をいただかなければ、その食材を止められないということになっている。そのため、先々を見越してご連絡をいただければよいが、必ずしもそういうご家庭ばかりではない。そうすると、「食べてはいないが給食費は請求せざるを得なくなる」ということになる。そのような点からも、学校にはなるべく子どもの状態に応じた、保護者との連絡確認をお願いしている。

郷 田 委 員／了解した。学校側も、「来てないから給食費やめたほうがいいんじゃないですか」とは言いづらい。登校してほしいと思うからである。

コロナ以降に不登校の方が増えている中、現実的な費用や残食についてもおそろく反映されていると思う。私の子どもの「学校で、牛乳をおかわりして分ける」という話を聞くと、結構高止まりして出ていると感じる。個人差もあり、非常に難しい問題だと思うが、学校である程度、何か柔軟な形ができればよいと希望している。意見である。

報 告 終 了

(関係者以外退出)

協議①「いじめ重大事態の調査結果の報告について」

本議案の提案理由を学校支援担当課長が説明。

協 議 終 了

協議②「いじめ重大事態の調査結果の報告について」

本議案の提案理由を学校支援担当課長が説明。

協 議 終 了

4 閉 会

16:27 田島教育長が閉会を宣言